

令和3年4月10日(土) 13:30～
会場 上宮学園柔道場
大阪中体連柔道部 審判部

令和3年度

大阪中体連柔道部

審判伝達講習会

1 はじめに

この冊子は、国際柔道試合審判規定変更点について（2020年1月13日 更新版）を基に作成しました。

2 主なルール・解釈変更点・追加点

（1）立技におけるスコアの評価

「一本」と「技有り」のみとする。

一本の評価基準		
1. スピード	2. 力強さ	3. 背中が着く
4. 着地の終わりまでしっかりとコントロールしている。		

ローリングに関しては、（背中の一部が）着地してから中断せずに背中が着いた場合のみ「一本」を与える。

※ クロアチア・ザグレブにおけるルール検証会議により一本の定義が再度議論され、講道館柔道本来の一本の定義に近づく形で合意された。

参考：講道館柔道の本物の定義

「技を掛けるか、又は相手の技をはずして相当の勢いあるいは、はずみでだいたい仰向けに倒したとき」

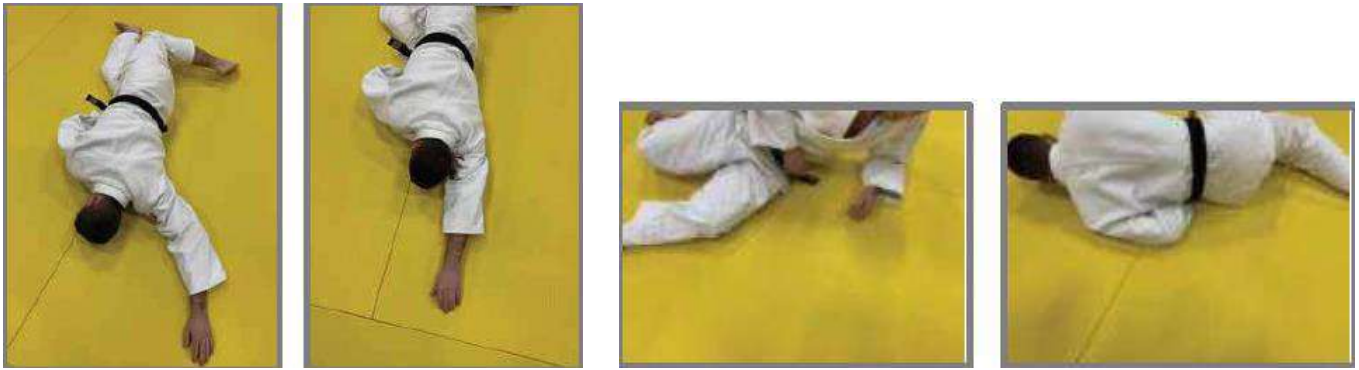
技あり評価基準
「一本」の評価基準を満たしていない場合、「技有り」が与えられる
※ 「技有り」の評価は以前の「有効」と「技有り」と併せたものとする。

着地してから攻撃動作が継続し、その後ローリングした場合、もしくは体側が着地してからローリングした場合（下肢から肩、もしくは肩から下肢）は、「技有り」を与えることができる。



- 投げられる際に両肘又は両手を同時につき着地した場合、「技あり」が与えられる。
- 片肘、尻もち、または膝をついて着地し、継続的な流れで直ちに背中を着いた場合、「技あり」が与えられる。
- 受が肘と手をつき着地した場合、「技あり」が与えられる。

[技有りではない例]



(2) 返し技・変化技のスコア

返し技（大内刈りを大内返し）・変化技（大内刈りを隅返し）について

- ・返し技（変化技）において、返し技（変化技）を掛ける側が着地する衝撃を利用して技を施すことを認めない。
- ・どちらの選手も明らかに動作をコントロールすることなく、両選手が同時に着地した場合、双方にスコアを与えない。
- ・「同体」（双方が同時に同じ程度の技の効果で着地する）の場合もノースコア。優劣がはっきりしない場合はノースコアであったが、投げ技と返し技（変化技）をその一瞬の過程の内うちに優劣・グリップ・着地・胴体・コントロール等を判断することが求められている。→判断が瞬時に困難であれば、必ず副審と合議をし、技を仕掛けた方と仕掛けられた方のコントロール、グリップや着地など総合的に見極めた上で、スコア or ノースコアを判断する。
 - ➡ケアシステムの積極手的活用

(3) ブリッジとヘッドディフェンス

- ① 受が「一本」を避けるために、故意にブリッジの体勢（アーチ）になって着地した場合、取の「一本勝ち」とする。
- ② 受が「一本」を避けるために、着地後故意にヘッドディフェンスの体勢（アーチ）になった場合、受到「反則負け」が与えられる。
⇒3 審判全員の合意が必要。
（頭を少しうな垂れ、手のひらで首の後ろに触れるジェスチャーで表す。）

※ 低い背負い投げ等で投げられた試合者が、受け身をとることができずに『頸椎・脊椎に損傷を及ぼすような形』で顔面から畳に落ちた場合。⇒反則負け

H30 年度の解釈を変更し、「ヘッドディフェンス：反則負け」とする。以降の一連の試合に出場させない。[本中体連柔道部独自の申し合わせ事項]

注）：明らかな受け身の技術が未熟、深刻な怪我の防止の観点から



ブリッジ
「一本」



ヘッドディフェンス
「反則負け」



低い背負い投げによる
ヘッドディフェンス
「反則負け」
(大阪中体連申し合わせ事項)

注意：故意ではないヘッドディフェンスは双方（取・受）に罰則を与えないとなっている。（IJF）

- 例：① 背負い投げ、背負い落とし（直下に投げ落とす技）
 ② 相手の両袖を掴んだまま施される袖釣込腰
 ③ 相手の両襟を掴んだまま施される腰車 など。
 これらの事象が起きた場合、注意深く判定が行われる。→ケアシステムの活用

※ 別の技でも故意ではないヘッドディフェンスは起こり得る



① 背負い投げ、背負い落とし



② 相手の両袖を掴んだまま施される袖釣込腰



③ 相手の両襟を掴んだまま施される腰車



(4) 両袖を持つての技を施すことについて

技の特性と作用により、技を施された相手が故意によらず胴体により先に顔面あるいは、頭部から畳に着地する恐れのある技

- ・袖釣込腰、大外刈、外巻込、反則負け、相手に抱き着いての小外掛け、大内刈り
- ・内股、巴投げ→ヘッドディフェンスしかできないと判断すれば反則になる。
- ・出足払い、支え釣り込み足→反則にならない。

⇒相手を背部あるいは上部側面から着地させることまで禁止するものではない。

※全柔連主催大会では、両袖を持つて施した技によって反則負けになってもその後の一連の試合に出場できる

(5) 寝技から立技への移行

①寝技の定義：優位者をA・相手をBとする。[優位者とは、立ち技を選択するのか
[寝技を選択するのかの主導権を持つ方の試合者を指す。]

- ① 立ち技からの動きの流れが止まった場合→「待て」
- ② 優位者Aが寝技で攻める意思がなく、相手Bと一切接触がない場合→「待て」
- ③ 試合者A・B双方が、両膝をついた場合、寝技と見なされる。
- ④ 試合者Bが、両肘・両膝の4点を畳についた場合、Bは寝姿勢と見なされる。
- ⑤ 試合者Bが、腹ばいになった場合、Bは寝姿勢と見なされる。

①②



③



④⑤



②立ち技のスコア

- ⑥ 上記③④⑤では、A・Bともに、投げても立ち技のスコアにはならない。
- ⑦ 上記④⑤で、優位者Aが相手Bを無理に引き上げて投げても、立ち技のスコアにはならない。
- ⑧ 上記⑥・⑦の場合、Bは優位者Aの「足・脚・下ばきを掴んで防御」してもかまわない。
- ⑨ 上記③～⑤で、Bが自ら立ち上がる行為を取った場合、その後は立ち技に移行したと見なされ、施された投げ技はスコアの対象となる。⑧は、「指導」。
- ⑩ 三角固めに入る動作で相手Bを投げても、立ち技のスコアとはならない。

※ 劣位者 B が両肘ならびに/もしくは両手と両膝が同時に
畳についた場合、優位者 A の選手は寝技に移行する技
しか施すことができない。この状態で、投げ技を施し
てもスコアにならない。

動作中の流れの中で、瞬間的に着いたとしてもこのよう
な体勢から引き込み返しなどの技を施した場合、立ち技
のスコアを取ることが多い。



③組み手を制御している体勢の場合



上記のような立ち姿勢の選手（優位者）が組手を制御している場合、膝をついている選手も依然
立ち姿勢の状態であるとみなし、投技の規定が適用される。

ただし、優位者が直ちに攻撃しなかった場合、主審は「待て」を宣告する。

膝をついている選手は、投げられるのを防ぐために白の脚を掴むことはできない。

もし、そのような行為を行った場合は指導が与えられる。

※優位者は寝技を施すこともできる。

(6) 抑え込みについて



裏固は（抑え込み技として）認められる。



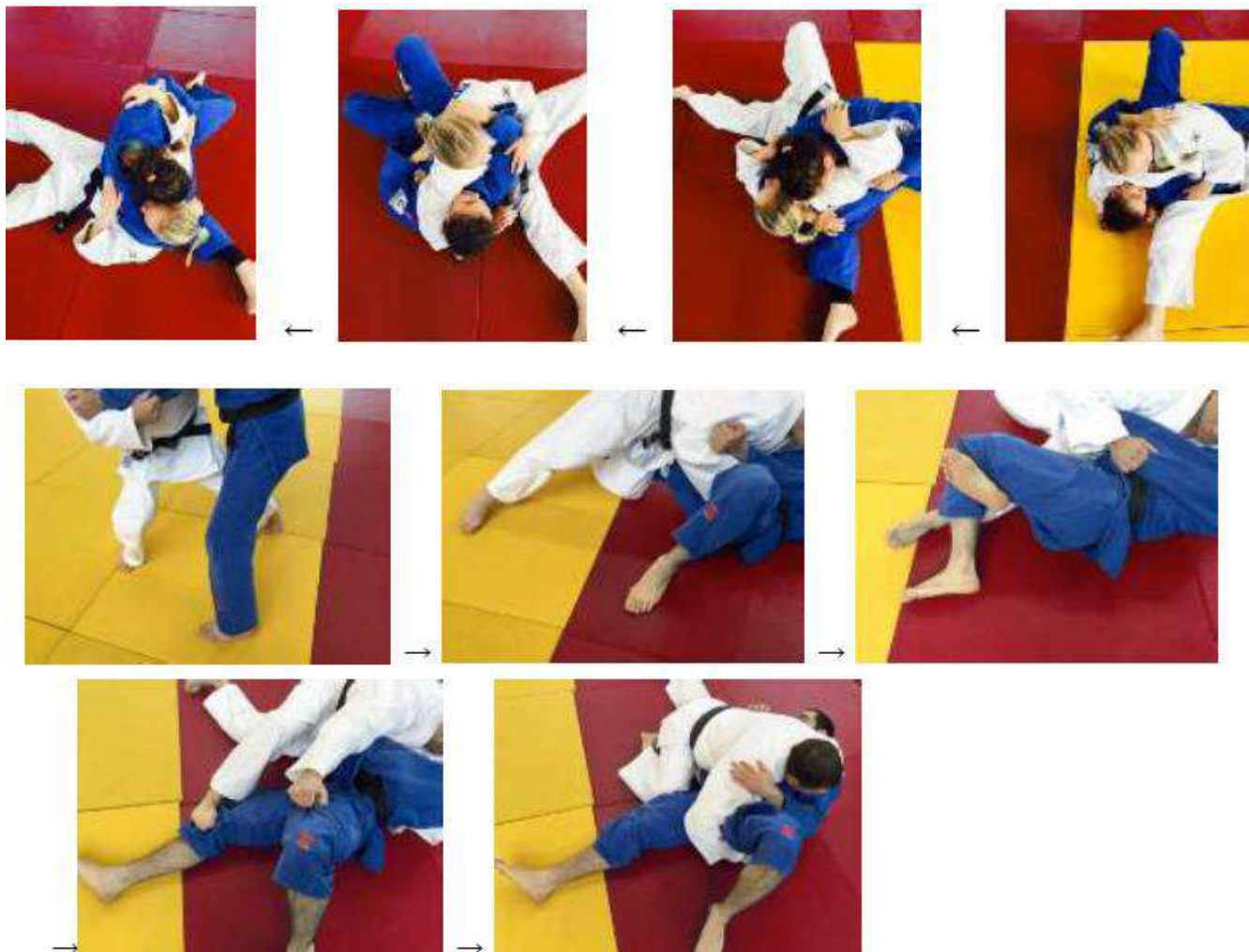
このような形の抑え方は認められない。



相手の脚を過度に伸展して施す絞技、関節技は禁止とする。
このような行為が見られた場合、主審は直ちに「待て」を
宣告し、「指導」を与える。

※白の選手が青の選手の膝裏を抱えてた場合、
その限りではない

(7) 有効なアクション（「待て」を宣告する場面ではない）



場内で始まった行為（寝技、立技）については、継続される。

(8) 反則行為について



ベンディングポジション

・両腕、特に襟と億襟を持って相手を屈ませるような状態にさせ、直ちに攻撃をしない場合、ブロックをしている行為として「指導」が与えられる。

[場外指導]

アクションに関係なく両足が場外に出た → 「指導」

片足が場外に出ている場合、直ちに攻撃しない、もしくは直ちに場内に戻らない → 「指導」



[ベアハグ]

- ベアハグを行う場合は、攻撃する選手が攻撃を行う前に少なくとも片方の組み手を持っていないなければならない。
- 両手同時にもしくはほぼ同時に（ベアハグの体勢に）組む事は認めない。柔道衣に触れただけでは組んでいるとはみなさない。しっかり柔道衣を握っていること。

ベアハグ：ダブルポイント

例) : 青の選手がベアハグをした後に、もしくは青の選手が脚取りを行った後、白が青の選手を投げて「技あり」を獲得した場合、スコア（白に「技あり」）に加えて罰則（青への「指導」）が与えられる。また、3 回目「指導」の場合は「反則負け」が優先される。

〔脚取り〕

- ・（組み手がない状態で）帯より下を掴む全ての行為には指導が与えられる。
- ・脚取り、もしくは下穿きを掴む行為に対しては、毎回「指導」が与えられる。
- ・「指導」が3つ累積した場合、「反則負け」となる（脚取り指導2回での「反則負け」の廃止）。



有効なアクションであり、「指導」は与えられない（相手の柔道着を握っているため）



“肩三角グリップ” 相手の首と片方の肩を両腕で抱える行為



寝技の場合、肩三角グリップを施しても良い。

寝技において、脚で相手の体を固定し肩三角グリップを施すことは禁止行為であり「待て」が宣告される。

立技における肩三角グリップは「待て」が宣告される。



(立技において) 肩三角グリップの状態でご意に投技を施した場合、反則負けが与えられる。

(肩三角グリップによる投技の行為が) 寝技の場面から始まった場合には直ちに「待て」が宣告されなければならない。

(9) 柔道衣の乱れに対する新たな罰則について

試合中に柔道衣が乱れ、帯より外に上衣の裾(背部を含む)が出た場合、主審の「待て」から「始め」の間に、選手自ら素早く服装を直すこと。(H31.3.26 全柔連より通達)

・内容より一部抜粋

- ①主審が「待て」をかけても乱れた柔道衣を直そうとせず、放置し乱れたまま「始め」を待っている時に、主審より柔道衣を直すよう指示された場合、これを1回目とカウントし、2回目以降はその都度、「指導」が与えられる。
- ②本人が緩く結ぶ(女子に多い)ことが原因で解け、自ら固く結び直さず主審から指示された場合もカウントの対象となる。
- ③積極的な試合展開により上衣が乱れての場合は、カウントされない。
- ④場外や寝技の停滞などで「待て」がかかった場合、柔道衣の乱れを選手が放置し、主審から指示された場合にカウントされる。

※ 時間稼ぎのため相手の道衣を故意的に帯から裾を出したり、乱したりする選手が予測される。その場合はきちんと見極め「指導」を与える。

追加：2020年2月28日全柔連より通達

- ・攻防に関係の無い行為で、自らの柔道衣(裾部分)を帯から出す行為。
 - ・攻防に関係の無い行為で、意図的に相手の柔道衣(裾部分)を帯から出す行為。
- 上記の二つについては「指導」の対象となる。

※通常の攻防の中で、偶発的に相手の服装を乱すことは対象とならない。



故意に出してはならない（指導が与えられる。）



青が組み合っていない状態から、白の整えられた柔道衣から意図的に裾部分を引き出した場合に対象となる。



青が組んだ状態から、白の整えられた柔道衣から意図的に裾部分を引き出した場合に対象となる。

（10）新たに適用される罰則「反則負け」の内容

「故意に相手の足を踏みつけて技を仕掛ける及び故意に相手の頭髪を掴んで技を仕掛ける行為」は、柔道精神に反する行為として「反則負け」が付与される。但し、1回目は偶発的に起きうる可能性もあるので「待て」として、ノースコア、ノーペナルティで試合を継続する。2回目があれば、故意であると判断し「反則負け」を付与する。



白が故意に青の足を踏みつけてから、技を仕掛けた場合に対象となる。

(11) その他

[マウスピースの装着]

事前に審判員へ申し出ることによって、装着することを認める。但し、白もしくは、透明なものに限る。〔新たに、柔道着コントロール時に申請、確認が必要〕

[関節技・絞技をかけてはいけない場面]



- ・両者が立ち姿勢の状態関節技、絞技を施すことは禁止する。直ちに「待て」を宣告し「指導」を与える。ただし、これらの行為が（相手にとって）危険である場合、もしくは怪我を負わせるような行為であった場合は、通常通り「反則負け」が与えられる。

立ち姿勢において関節技を施すこと。→反則負け（全日本柔道少年規定）

注：標準的な組み方から袖釣込腰を施した場合、相手の肘を極めてしまうと反則負けになる。

(12) 審判員の動作について



試合場に入退時の礼



試合前の立姿勢



試合者を試合場へ招き入れる

① ジェスチャーについて

ジェスチャーは正確に、力強く、少なくとも3秒～5秒間、継続させるものとする。審判に個性は必要ない。正確に早すぎず、遅すぎず、小さすぎず、オーバー過ぎない。また、ジェスチャーと発声は同時でなければならない。



一本



技あり

- ・「一本」は片腕を頭上高く伸ばし、掌を前に向けて挙げる。
- ・「技あり」は片腕を体の側方で、肩の高さに掌を下に向けて挙げる。



「技あり」の合図をし、その後、「一本」の合図をする。

技あり、合わせて一本



抑え込み

- ・ 試合者に向かって上体を曲げ、試合者の方へ掌を向けて片腕を上げる



解けた

- ・ 「解けた」片腕を前方に挙げ、上体を試合者の方に曲げながら左右に早く二、三回振る。



待て

- ・ 「待て」は片手を肩の高さに畳とほぼ、平行に挙げ、指を上にして開いた掌を時計係に向けて示す。





- ・「そのまま」は上体を前方に曲げ、両掌で試合者に触れる。
- ・「よし」両掌を試合者にしっかりと当て、その後強く押す。

そのまま⇔よし



立つことを促す

◇「そのまま」「よし」を掛けずに、寝技を継続したまま「指導」を与えることができるが、その場合はペナルティを犯している選手の視界に入る位置で行うこと。



宣告の取消し



スコア無し

「宣告（スコア、罰則）を取り消す場合」一方の手で宣告（スコア、罰則）と同じ合図を行い、もう一方の手を頭上前方に挙げ左右に2、3回振る。スコア、罰則を取り消す場合、発声は行わない。



始め⇔それまで



勝者宣告

「試合の勝者を示す場合」掌を内側に向けて、勝者の方へ、肩の高さより上に片手を挙げる。



指導を与える

「罰則を示す場合（指導、反則負け）」握りこぶしから人差し指を伸ばして、罰則を与える試合者を指差す。



消極的指導



偽装攻撃の指導

「積極的戦意に欠けること」胸の高さで両前腕を前回りに回転させ、人差し指で罰則を与える
試合者を指差す。

「偽装的な攻撃」手を握って両腕を前方に挙げ、その後両手を下げる動作をする。



両手でブロック



片手でブロック



クロスグリップ、片襟の指導



自分の襟を持った組手妨害の指導



場外指導

(今は、片方の腕を伸ばし肘を2回曲げる動作を行う)



ピストルグリップへの指導





袖の中に指を入れた場合の指導



脚取りによる指導



組み合う前後に攻撃の動作を行わない指導

- ケンカ四つで引手の取り合いをしている場合、片方の腕を前に出し、手の甲側の方向に約30cm振る動作を行う。



医師の要請

- ドクターのいる方向に手を上にかざし、最後に掌が上になるように試合場へ招き入れるように振り下ろす。